ANNIVERSARY 100th BUNKA GAKUEN

文化学園服飾博物館
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM

型染 日本の美

2022年
6月15日［水］→ 8月4日［木］

開館時間／10:00 → 16:30
6月17日（金）、7月8日（金）は19:00まで開館、入館は閉館の30分前まで
休館日／日曜日・祝日・6月23日（木）
入館料／一般500円、大高生300円、小中生200円
障がい者とその付添者1名は無料

※混雑時には入館をお待ちいただくこともあります。
※状況により予定が変更される場合があります。
最新の情報はホームページでご確認ください。

ぐるっとパス 2022 Grutto Pass 2022

紙や木の型を使って布に文様を表す型染は、日本の豊かな染織文化の中で古くから行われてきました。型による文様には整然とした模様配置や反復の諧調など、特有の表現や美しさを見出すことができます。ものの形を巧みにとらえて単純化、デフォルメした図案は、型の使用という制約があるからこそで、かえってそのものの本質を印象深く表すことができ、日本人の文様に対する独特の美意識も感じられます。本展では、小紋、板締、型友禅など、藍一色の精緻なものから多色を用いた華やかなものまで、さまざまな型染の服飾を紹介します。

第一章 実用の美…【江戸時代】

型染の衣服は、江戸時代中期頃まで主に武家に用いられていましたが、その後は町人にも広まり、江戸時代後期には木綿地に中形で文様を表した浴衣が庶民の夏の衣服として広く用いられました。量産に向く型染は、日常着の文様を染めるのに多用され、幅広い人々に愛用されました。

着衣 型染 江戸時代後期

長襦（部分） 小紋 江戸時代後期

第二章 精緻を極める…【明治時代】

明治時代の型染は、さらなる技術の向上を目指して、より精緻なものへと進歩していきました。複数の型を寸分違わず合わせて複雑な文様を染めたり、刺繍などと組み合わせることで表現の幅を広げていくなど、様々な試みが行われました。

下着 小紋 明治時代

着衣（部分） 中形 明治時代

第三章 華やかなる大衆呉服…【大正・昭和初期】

化学染料を用いた型友禅による捺染は、それまでの防染を基本とする型染の概念を一変させる画期的な新技法でした。それまでは、色鮮やかな友禅染めの着物を着用できるのは富裕層に限られていましたが、捺染により大量生産が可能となり、女性たちの着物は一気に華やいだものになりました。

着物 型友禅 昭和時代前期

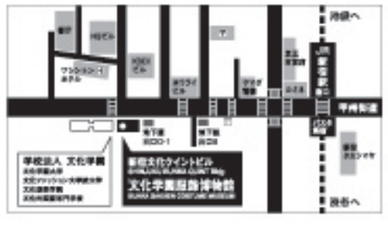
着物（部分） 型友禅 大正時代

第四章 伝統の継承と新しい表現…【現代】

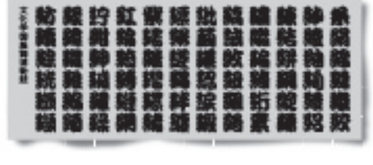
戦前まで人々の衣生活を支えていた手工業としての型染は減少していきましたが、戦後の型染は、工芸作品として新たな展開を見せていきます。型染作家は、伝統技術と自身の豊かな創造力を融合させ、オリジナルの型染作品を発表しています。

着物 木綿麻・石墨 昭和33年 都谷 妙博子

着物（部分） 型絵染 昭和33年 芦沢 勉介



文化学園服飾博物館
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM
〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル
TEL.03-3299-2387 JR・京王線・小田急線新宿駅（南口）より徒歩7分

学校法人 文化学園
文化学園大学／文化ファッション大学院大学／文化服装学院
文化外国語専門学校／文化出版局／文化学園服飾博物館

文化学園服飾博物館オリジナル手ぬぐいを制作しました。
染織に関連する糸へんの漢字 72 字を伝統の法則で染めました。
限定発売！